

「ボランティア部の生徒による宮城県沿岸部の復興活動」 宮城県松島高等学校

1. 活動の概要

活動時期：2011年3月30日～4月1日

活動時間：10時～16時

活動に携わった生徒は5名で本校ボランティア部に属している女子である。この生徒たちは津波の被害に遭った塩竈、松島地区に居住していることから、ボランティアで復興のために汗を流している人々の姿を目の当たりにし、何かしなければという思いから、活動できる部員に呼びかけて活動を始めた。

現地で指揮をとっているボランティア団体に問い合わせて、参加申し込みをした後、塩竈市北浜地区の民家や老人ホームにあったがれきの撤去・泥かき出し作業、松島海岸や周辺店舗近辺のがれきの撤去・泥かき出し作業をおこなった。以下は活動状況についての説明である。

本部で受付をし、地区の配属が決まる。活動用の着衣の準備を済ませ、現地へ移動する。現地へ到着後、ボランティア団体の担当から作業の説明を受ける。最初に大きながれきを建物の外へ運び出す。その後、ブラシなどの道具を受け取り、泥をかき出す。泥が少なくなったら、水を流して残りの泥を流してぞうきん・ブラシ・モップ等で磨いた後、最後に水を拭き取り、作業が完了する。

2. 活動の成果等

3日間で塩竈地区では老人ホーム、民家5棟、近辺の商店のがれき、泥の撤去、松島地区では松島海岸一帯と商店街の一角のがれき・泥の撤去を行った。地域の方々に感謝され、生徒たちは震災の影響で心身もくじけそうな時期に一念発起して活動した結果、大変な作業や様々な人たちとの交流を通して、生徒自身が励まされるなど貴重な体験となったようだ。

以下は活動をおこなった生徒5名の感想である。

生徒A：なかなかできない経験でしたので、助け合うことの素晴らしさを知りました。

生徒B：普段できないことをできていい勉強になりました。震災が起きてたくさん大変なことがありましたが、これを通して助け合うことの大切さを学びました。

生徒C：結構重労働で大変だったけど、被災者の方に少しでも役に立てたのでとてもよかったです。

生徒D：水や泥のかき出し作業は力仕事だったので大変でしたが、ボランティア先の人たちに喜んでもらえたのでうれしくなりました。災害ボランティアを通して、貴重な体験をさせていただきました。

生徒E：同じ市内に住んでいるのに、こんなにも被害が違うのかと津波の恐ろしさを感じながらボランティアをしていました。また、この家や老人ホームの方々は以前と同じような生活をまたできるのかと考えてしまい、とても苦しい思いを胸の内に秘めながら作業をしていました。とても広い場所のボランティアをするときには、たくさんの人が集まり、団結して作業しました。不謹慎とは思いますが、この震災のおかげで日本人の優しさを知ることができたのだと思います。しかし、それとは反対にボランティア先の人が「あんたもボランティア頼みなさいよ。タダよ。タダ！」などと話しているのを聞いてしまい、大きな助けになっているのが「もの」として扱われてしまっている気がして悲しくなりました。いろんな経験ができ、人として大きく成長できたと思います。

最後に、ボランティア部の生徒ではないものの本校生徒ががれきや泥の撤去のボランティアをおこなったことで先月、御礼の手紙が本校に届いた。未曾有の大震災でこれまでの生活を送ることが難しくなり、価値観も揺らいでくるなどの状況でも、何とか立ち上がり、他人に対する思いやりを持って実際に行動することで、生徒たちは社会のあり方や人とのつながりなどを学んだと感じる。

